

第8章 活用

第1節 方向性

- ・本史跡の本質的価値や発掘調査の成果について、史跡整備過程も含めて積極的な公開に努める。
- ・八天遺跡をはじめ本市に立地する史跡について、学校教育・生涯学習・地域行事の場において学ぶことができるような機会を創出する。
- ・八天遺跡をはじめ本市に立地する史跡について、ホームページ等を含め多様な手段・媒体を活用しながら、広く情報の提供・発信に努める。
- ・本市に立地する史跡や博物館等を関連資産として一体的にとらえ、連携した活用が図られるような取り組みについて検討する。

第2節 方法

(1) 学校教育における活用

若い世代への周知、将来の担い手となる人材の育成を目的として、教育面でも本史跡の関心を高める活用に取り組む。

①出前授業や課外授業

本史跡の理解促進を目的として、小・中学校への出前授業と現地での課外授業や体験学習を実施する。また遺跡見学会や遠足を受け入れる。

②教材としての遺物の利用

学校の授業で使用する教材として、本史跡の調査成果（パンフレット、映像資料、遺物等）を活用する。学校教育担当課と連携して、タブレット端末等を活用した学習プログラムの開発について検討する。

③歴史学習の支援

児童・生徒が本史跡や地域の遺跡について自主的に学習する際に支援を行う。夏休みの自由研究でも活用できるような題材（出土資料の解説、土器や土製仮面等の製作体験、発掘調査体験、遺物整理体験）の提供を検討する。

④大学等との連携

大学等との共同調査や共同研究の実施を検討する。また、考古学や歴史学等を専攻する学生の学術調査（内容確認調査）への参加の受け入れを検討する。

(2) 生涯学習における活用

現地で縄文時代の生活と祈りを身近に感じられるような活用を目指す。関連施設と連携して本史跡の情報を継続的に発信し、縄文文化に対する興味関心を高める。

①文化の多様性を考える場の創出

縄文時代の文化と環境を肌で感じ、文化の多様性について考えるきっかけとなるような場の創出を目指す。そのためにも来訪者が、「縄文時代の祈りの村」としての八天遺跡について理解できるような整備が必要である。

②市民を対象とした企画の実施

市民を対象とした催しを企画し、史跡の価値について知る機会を創出する。本史跡に関連する企画展を開催するとともに、講演会やシンポジウムの開催について検討する。また本史跡を含む県内・市内の史跡見学会の開催について検討する。

③市民の学びの支援

北上市生涯学習まちづくり「出前講座」に引き続き取り組むとともに、地域の史跡に関わる各種団体等に向けた見学会・講習会の実施について検討する。

④関連施設との連携

博物館・鬼の館・図書館等の市内の社会教育施設と連携する。特に博物館本館での本史跡に関する常設展示内容の充実と更新に努める。

(3) 地域における活用

行政と市民・地域・各種団体が協働して活用に取り組むこととする。地域住民が史跡整備に参加する機会を創出する。また、市民が史跡を活用して行う様々な活動を支援する。史跡の周辺文化財や博物館等と一体的かつ有機的な活用を図ることにより、地域の魅力を顕在化し、史跡を核とした交流人口の増加を図る。

①市民や地域の活動と関連づけた活用

地域の人々が集い、行事に利用できるような活用を目指す。平成20(2008)年から開催されている「八天縄文まつり」(更木夏まつり前夜祭)は縄文時代の大型円形建物跡をシンボリックに表示し、地域の創意工夫によってユニークなイベントとして継続している。このまつりの継続や内容の充実を図る。また、そのために効果的な整備について検討する。

ガイドボランティアの育成を見据え、地域住民や北上観光コンベンション協会等を対象に、地域の文化財のストーリーを作成し、研修講座を開催する。

出土遺構や出土遺物(耳・鼻・口形土製品等)をモチーフにしたグッズ製作を検討する。



写真 13-1 第3回八天縄文まつり(平成22(2010)年)



写真 13-2 更木夏まつり前夜祭(令和元(2019)年)

②文化財や博物館等と関連づけた活用

本史跡が立地する北上川東岸地域には、樺山歴史の広場(樺山遺跡)と北上市立博物館本館が所在している。博物館には本史跡や樺山遺跡の遺物が常設展示されている。そこで当面の間、博物館を本史跡のガイド施設として位置付け、本史跡、市立博物館本館、樺山歴史の広場を連携させて「きたかみ縄文回廊」の設定を目指す。そのためには、史跡の本質的価値の正しい理解につながる整備が必要である。樺山歴史の広場との内容の違い(役割分担)についても十分に検討する必要がある。

周遊ルートの検討に当たっては、「北上花巻温泉自転車道」や「きたかみ新城ロード100」との連携により、自転車の活用も見込まれる。将来的には国見山廃寺跡や江釣子古墳群等を周辺資産として取り入れることも検

討する。

③周辺の歴史・自然資産と関連づけた活用

本史跡の近隣には「八天五輪塔（宝篋印塔と板碑）」や「臼井・更木ビオトープ公園ほたる群生地」が所在し、きたかみ景観資産に認定されている。これらのスポットは徒歩でも移動できる距離にあることから、「歴史学習会」や「自然観察会」等での活用について検討する。そのためには、歴史環境に加えて自然環境にも配慮した整備や、関連スポットへの徒歩での移動を考慮した整備が必要となる。

④地域住民や市民の憩いの場としての活用

本史跡は眼下に北上川を見下ろし、沖積低地を一望できる。また、好天時には遠く奥羽山脈を望むことができる。周囲には田畑が多く、台地斜面は山林や原野となっている。このような景観的特長を利用し、地域住民や市民の憩いの場としての活用が図られるようにする。また、隣接する特別養護老人ホーム「八天の里」の利用者も安心して来訪できる場を目指す。四季折々に魅力があり、北上川を見渡す景観の過去と未来に思いを馳せることのできる空間を創出する。

（４）史跡の調査・整備と関連づけた活用

調査による価値の更新や、整備事業を通じた史跡の活用が図られるようにする。

①史跡の調査と関連づけた活用

継続的な調査研究により、発見の驚きと喜びに満ちた空間の創出を目指す。そのために、発掘調査（内容確認調査）を実施する場合には現地説明会を実施する。研究報告会や講演会と史跡説明会をセットで開催し、本史跡に関する新しい価値（発見）の共有が図られるようにする。

②史跡の整備と関連づけた活用

史跡の有効な活用を図るために整備事業を行う際には、整備の進捗に応じた現地説明会や、整備への市民の参加について検討する。

（５）史跡の情報発信

本市ホームページにおいて本史跡についての情報が掲載されているが、関心がある市内外の来訪者に向けて、インターネットの情報の充実を図る。また、ご当地キャラクター等を活用した案内や解説を充実させる。

①案内表示の充実

本史跡に誘導する案内表示が存在しないため、県外や市外からの来訪者による活用は低調であると推測される。ＪＲ北上駅や、東北自動車道北上・江釣子インターチェンジから本史跡に至る道路への案内表示の設置を検討する。

②インターネット等の活用

本史跡のパンフレットを作成し、本市ホームページにも掲載する。また、「いわての文化情報大事典」等を活用して、本史跡の情報を広く発信する。本市の公式SNSにおいて、本史跡で開催するイベントや現地説明会についての情報発信を検討する。

③キャラクターの活用

本史跡に親しみを感じてもらうことを目的とし、本史跡をイメージした新たなキャラクター製作や、更木地区の「くわちゃん」の活用について検討する。